

高鍋町の先賢と文化財



高鍋藩家老屋敷「黒水家住宅」

高鍋町指定有形文化財
(平成2年〈1990年〉)

黒水家は、筑前（主に現在の福岡県朝倉市）秋月氏の頃から秋月家に仕える旧家です。黒水家住宅は、高鍋藩10代藩主秋月種殷（たねとみ）に仕えた12名家老のひとり、黒水長慥（くろみずちようぞう）の住居で、家老屋敷（かろうやしき）と呼ばれています。高鍋町内に現存する上級武家屋敷の遺構で、建立年代は不詳ですが、建物の様式等から文化・文政（1804〜1830年）の頃と推定されています。

黒水家の子孫（横浜市在住）から町が寄贈を受け、修復。平成2年（1990）高鍋町の有形文化財指定を受け、平成7年（1995）から一般公開されています。

黒水家住宅 | Kuromizuke Jutaku



主屋（糶蔵2階北西窓からの眺め）

主屋（しゅおく）
主屋は鍵屋敷になった寄棟造りで、茅葺屋根をもつ武家屋敷としては、県内でも極めて貴重です。屋根の茅葺は平成28年（2016）12月に葺き替えられました。

屋敷は、床が高く風通しが良く、庭には高鍋町の町木である「銀もくせい」ほか、「梅の木」「柿の木」などがあります。「かしわ」は葉を団子などに利用していたそうです。



黒水家住宅敷地配置図

正門の両側には石垣を堅固に築き、その上に土塀を設けて安全と警固に備えられています。広い敷地に茅葺の主屋を軸にして、糶蔵・みそ蔵・土蔵があります。



粃蔵



玄関（式台3段）

玄関は式台3段になっており、身分の高いことを示しています。許可を受けた者だけが「控えの間」「次の間」「上の間」へ入ることができました。本格的な床、書院をつけた風格ある「上の間」は庭側に突き出しており、この形状から鍵屋敷と言われます。床の間には掛け軸（直筆）、脇息、刀掛け、机、硯が設えてあり、いずれも当時のものです。



上の間（神棚・床）

粃蔵（もみぐら）
正門をくぐった左手に、木造2階建ての粃蔵があります。藩政時代に、年貢（米）の納入庫として高鍋城内に建てられ、藩校・明倫堂創設後に島田門付近（現在の高鍋農業高校テニスコート付近）に移されました。西南戦争当時、参戦反対（慎重）派を収容する仮牢として、薩軍によって9名の名士（九烈士）が投獄された建物でもあり、西南戦争終結後、入牢していた一人、黒水長慥が受難の証として譲り受けて、明治初期に自宅に移築しました。

黒水家住宅 | Kuromizuke Jutaku



◎開館のご案内



みそ蔵（左）・土蔵（右）

- 開館時間
 - ・午前10時～午後5時
 - （入館は午後4時30分まで）
- 休館日
 - ・毎週月・火・水曜日
 - ・祝日の翌日（祝日は開館）
 - ・12月28日～1月4日
- 入館料
 - ・大人 1000円
 - ・小人（小中高生） 500円
 - ・高齢者（70歳以上） 500円
 - ・障がいのある方 500円
 - ・小学生未満 無料
 - ※高鍋町内の小中学生は 無料
 - ※団体（20人以上） 土曜日無料 割引あり
- お問合せ先
 - ・高鍋藩家老屋敷黒水家住宅
 - 電話0983・23・7266
 - ・高鍋町教育委員会
 - 社会教育課文化係
 - 電話0983・23・3326

土蔵（どぞう）
鎧など重要な品々を保管するために使用していました。

みそ蔵（みそぐら）
味噌・醤油をつくり貯蔵していました。